

て再開発を進めている日本橋室町地区でも……。

「新開業の室町東三井ビルディングに10月28日、飲食店中心の『COREDO室町』がオープンします。これまででは働くだけの街だったこの地区で、昼も夜も楽しんででもらおうというのが狙い。もちろん、オフィスで働く20〜30代の、消費意欲の高い女性もターゲットです」(三井不動産・広報)

女性上位と男性の凋落ぶりが、街づくりにまざまざと表れているのである。そして森永氏はこう慨嘆するのだった。

「政府が格差社会の是正に本格的に取り組めばいいのですが、その気配も見えない。今の状況はしばらくは続くのでしようね」

## 妙に熱を帯びる 「愛岐トンネル」 つて何だ？

「産業遺産」が人気を呼んでいる。特に近代以降、日

本がこれから隆盛に向かわんとする頃の力強い遺構は観光名物となっている。そこに新たな遺産が加わった。

1900(明治33)年に開通し、66年に廃線となった旧国鉄・中央線の、岐阜県多治見市と愛知県春日井市を結ぶ約8<sup>km</sup>の区間に残る「愛岐トンネル群」である。総煉瓦造りのトンネル13基が連なる区間は、国の重要文化財に指定されている群馬県の碓氷峠(11基)を凌ぐ、国内最長のものと判明したという。古代文明じゃあるまいし……。

「いや忘れていたんです」とは「愛岐トンネル群保存再生委員会」の村上真善・事務局長である。

「そもそもは4年前、勝川駅(春日井市)の整備工事があって、プラットホームから煉瓦造りの土台が出てきたことから始まりました」

明治期の貴重な煉瓦ということで、駅前商店会の専務理事である村上氏らは、この煉瓦の保存に動き出す。

「その頃、そういえば現在の中央線より川沿いに廃線があったよな、という話で思い出したんですよ」

そのくらいであるから、廃線跡は40年以上、放りっぱなし。一抱えもある桜の大木、200本もの紅葉など植物の宝庫となっていた。「調査のため、土地の所有者(国鉄清算事業団から払い下げられた民間企業と多治見市)に立ち入りの許可を求めると、そこが廃線跡であることが知らなかったから

「のんびりした話だが、自然と遺構とが共存したまま遺すため、跡地を買い取る資金を集めている。」

「昔の厚紙の切符(硬券)で寄付の証明書を作ったりしていますが、まだ足りない」

立て！全国の鉄ちゃんよ。



かつての勇姿